

イネ育苗試験計画

- 6/12 塩水選 (比重 1.13 の塩水で種子を選別) 40℃で乾燥後 150g ずつ分包
6/15 種子消毒 スポルタック・スターナ 200 倍, スミチオン 1000 倍 24 時間
6/16 乾燥・浸漬 風乾後, 水に浸漬
6/19 播種 以下の各条件のもとで 150g (乾燥時) /箱で播種。タチガレン 1000 倍を散水後, 育苗器 (30℃) に入れる
6/22 苗出し
6/23 試験区 1・2 に対し所定量の肥料を与える。

対照区

- 宇部培土 2 号 N・P・K 各 0.8g/3kg (育苗箱)
床土 1.8~2.0kg (1.8kg)
覆土 1.2~1.0kg (1.2kg) (重量で調製)

試験区 1

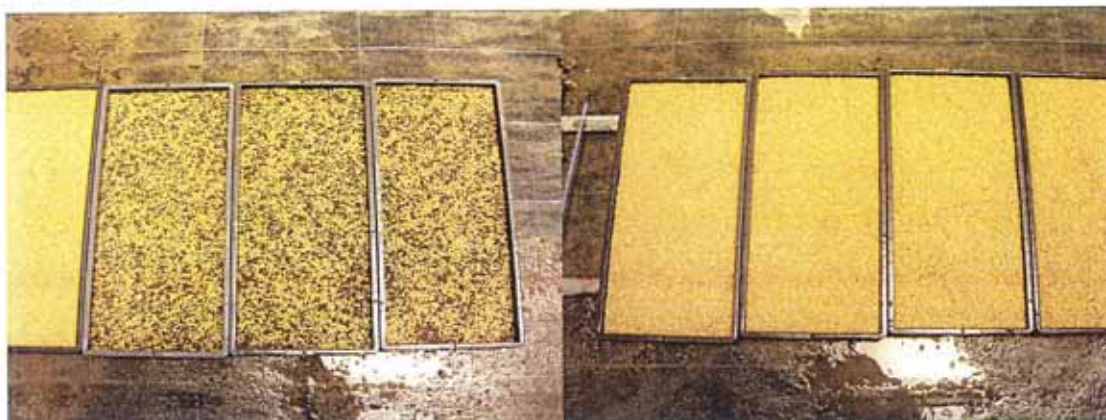
- 床土 播潰初殻 (育苗箱上部より 1cm)
覆土 宇部培土 2 号 1.2kg
肥料 イネ 1 号 (14-14-14) 3.43g (培土 1.8kg に相当)

試験区 2

- 床土 播潰初殻 (育苗箱上部より 1cm)
覆土 播潰初殻 (200g : 育苗箱擦切程度)
肥料 イネ 1 号 (14-14-14) 5.71g

肥料は発芽後覆土の上に散布

・試験経過



覆土前 対照区 (宇部培土2号)

試験区1・2 (籾殻)



覆土後 対照区及び試験区1 (覆土は培土)

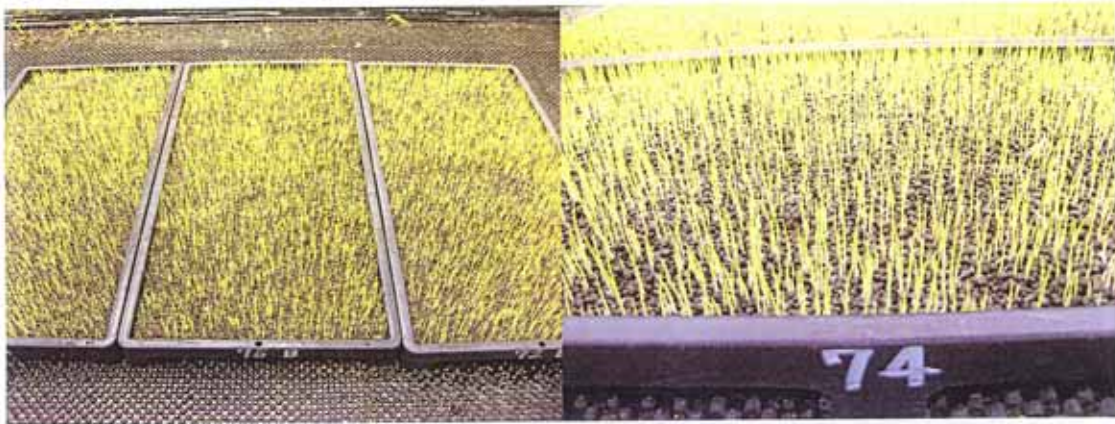
試験区2 (覆土は籾殻)

床土の重量は対照区が宇部培土2号 1.80kg (標準使用量) に対し、試験区1・2では乾燥籾殻 0.60kg (育苗箱 2cm 敷詰め: 6個平均) であった。対照区及び試験区1については覆土を宇部培土2号 1.2kg でおこない、試験区2については乾燥籾殻 200g とした。吸水後は、対照区: 3.81kg, 試験区1: 3.44kg, 試験区2: 3.00kg (各3個平均, 種子重含む) であった。育苗箱の風袋は 0.61kg であり、育苗箱を含めた吸水後の重量は、対照区と比較して試験区1で 92%, 試験区2で 82% となった。籾殻は吸水して体積が増加するため、床土への使用量をもう少し減らすことで、その差を広げることが可能であると考えられる。

床土を育苗箱に敷詰める際、ヘラで平らにする作業を行う。試験区では籾殻同士が絡んでしまい、少しでもへらの位置より高い部分があると、その先は雪だるま式に引っかかってしまう。そのため作業性は非常に悪い。

吸水すると、試験区では籾殻が膨張してしまう。その膨張の程度が不均一で (多分籾殻

の粒度の違いに起因すると思われる), そのため, 覆土を均一にすることが困難となった。

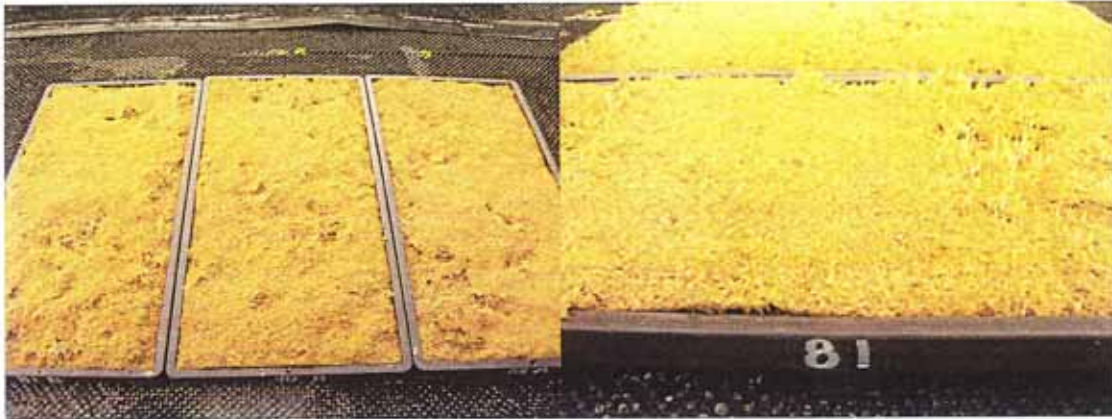


6/22 対照区：均一に生育している



6/22 試験区 1：苗揃いが不均一（遅れ気味）

覆土が不均一（覆土が少なくて軽かった）もしくは床土への根の伸長がさまたげられた部分で、種子が持ち上がっている。



6/22 試験区 2：苗揃いが不均一かつ、覆土とした籾殻が固まってしまい、苗が覆土とした籾殻を押し上げている。灌水によって持ち上げた籾殻がほどけるのではないかと予想したが、そのようにはならず、吸水した覆土（籾殻）の重量で潰される形となった。



6/22 試験区 2：灌水後



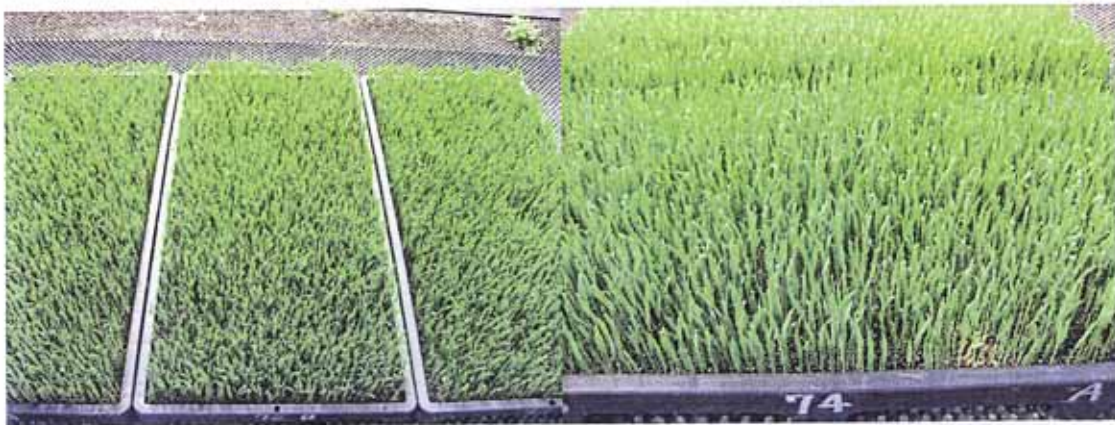
6/23 対照区：均一に生育している



6/23 試験区1：苗揃いが遅れ気味（約1日）
この後、粉碎したイネ1号（14・14・14）3.43g 施肥。



6/23 試験区2：かなり、覆土（初殻）が崩れた。
乾燥、もしくは大粒の水滴で崩れる。
この後、粉碎したイネ1号（14・14・14）5.71g 施肥。



6/24 対照区：



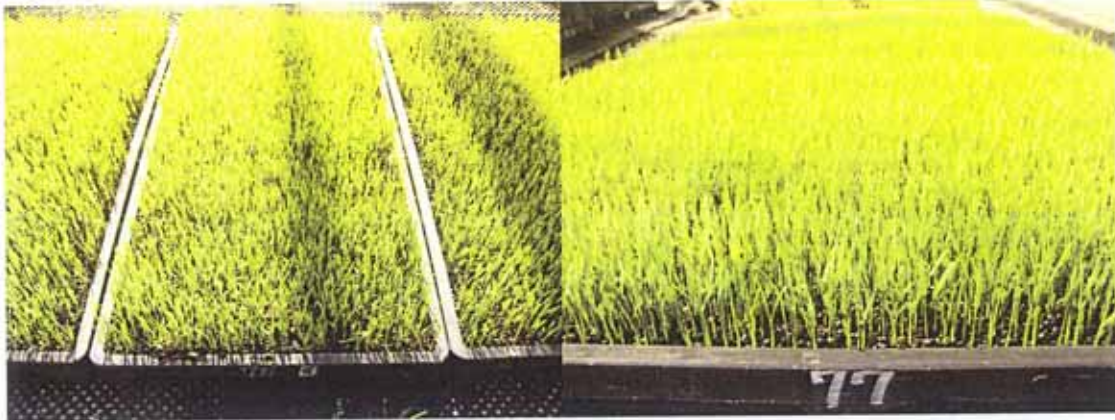
6/24 試験区 1：苗揃いに差は見られなくなったが，遅れ気味（約 1 日）



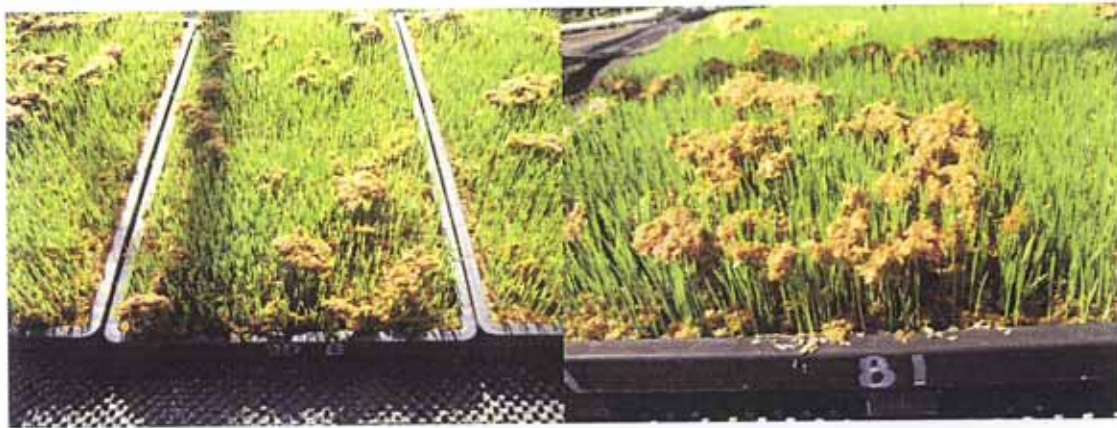
6/24 試験区 2：かなり，覆土（籾殻）が崩れた。



6/25 対照区：



6/25 試験区 1：苗揃いに差は見られなくなったが、遅れ気味（約 1 日）
葉色も良い。



6/25 試験区 2：覆土（籾殻）が崩れた結果、苗揃いは特に悪くはない。